



仙台泉ロータリークラブ  
副会長 2520 地区 RAC・RYLA 副委員長

三浦 一 氏

※三浦氏はオンライン参加



国際ロータリー第 2520 地区  
2015-16 年度ガバナー  
仙台泉ロータリークラブ

菅原 裕典 氏



国際ロータリー第 2520 地区  
ガバナー

佐藤 剛 氏



仙台泉ロータリークラブ  
会員選挙委員長

本木 浩喜 氏



仙台泉ロータリークラブ  
親睦委員長 2520 地区 RLI 委員

工藤 哲也 氏

## 「ポリオ根絶まで、あと、少し。」

ポリオ菌が人間の排泄物を通し、汚染された川の水などを子どもが口にして感染者になります。ポリオは、生活環境が悪くなると再発する可能性が高いです。RCが取り組む七つの重点分野「水と衛生」の重要性がよく分かりました。また私は、いかにパキスタンの人々が恵まれない環境の中でも、必死になって子どもを大切に育てようとしているか、ということも深く感じました。

工藤 声をかけていただいたとき、現地に行かなければ分からない、行けばそこには何かがあるという信念だけでした。テレビで難民キャンプの様子などを観ますが、カラチに行ってみると、想像した20倍くらい環境が劣悪で、その中で生活されているということが分かります。私は水処理を職業としていますが、仕事を通して水と衛生を何とかしたいといけなさと実感しました。

本木 現地に行くと、皆さん、ジャバニーズ、ジャバニーズと言って笑顔に変わり、我々を受け入れてくれました。そこでポリオ投与がスムーズに行きました。現地に入るには、警察や警護の方たちの協力が必要なのです。麻薬の取り締まりも厳格で、バスの下の荷台なども全部空けさせられました。現地の保健センター施設でワクチンを管理して、投与状況をきちんと管理していました。

菅原 今回の活動を今後、どう生かしますか

工藤 再来年度には、現地に水処理装置やウォータープラントを提供する活動をします。

三浦 自分たちが当たり前だと思っていることが、世界ではそうではないということ、とくに小中学生に、伝える場面を作りたいですね。

「思いをどう伝えていくか」

本木 私たちが感じた思いをどう伝えるかがこれからは重要です。きちんと伝えることで、クラブの中で私も行ってみるか、という声が出てくると思います。

佐藤 皆さんの話を聞いて、行動する大切さを改めて感じました。「あと、少し」なのです。

菅原 現地に行つて分かったのは、水、衛生的な暮らしが出来るようにしながら、育つた子ども達もきちんと働ける、就職出来る環境整備がとても大切だということでした。ポリオ根絶はもちろん、生活環境の改善と同時に母親も含めた教育をしっかりとしてもらうことです。

今回のカラチ行きが実現したのは、紙面で紹介できないくらい多くのロータリアンの協力があったからです。改めて御礼したいと思います。

また私たちは、RC貢献活動を外に表現しないという精神がありましたが、こうした取り組みをもっと出していかないと、世界の現実も分かかって貰えないですね。本日は、大変ありがとうございました。

## 「ロータリーが99.9%抑えたが・・・」

菅原 国際ロータリー（以下RC）第2520地区（宮城・岩手）の仙台泉RCクラブから、ポリオワクチン投与活動に初めて参加しました。

佐藤 RCは、過去35年以上にわたり世界からポリオを完全に根絶する活動に取り組んでいます。1979年からフリービンの子どもたちに予防接種を実施したことから始まり、ポリオ症例を99.9%まで減少させることに成功しました。

菅原 日本では現在、症例がほとんどないため、この病気に対する危機意識がありません。1960（昭和35）年に、日本ではポリオ患者数が5000人を超え、かつてない大流行になりましたが、生ポリオワクチンの導入で、おさまりました。

工藤 国内ではポリオと言っても、ほとんどの方は分からない。佐藤 私の年代の方はお分かりになりますが、ポリオはかつて、日本では小児まひと呼ばれました。ワクチンのおかげで国内ではいま、症例がほとんどありません。ポリオは、主に5歳未満の子どもが罹患する可能性が高く、身体まひや時には死に至ることもある感染性疾患です。ウイルスは汚染された水を介し、人から人に伝播し、神経系を攻撃します。

本木 佐藤ガバナーがおっしゃったように、RCの活動で世界のポリオ症例を99.9%まで根絶したと聞いています。

佐藤 RCは、これまで21億ドル

以上と無数のボランティア時間をこの活動に捧げ、122カ国、30億人の子どもを、身体まひを引き起こすポリオから守ってきました。RCの取り組みが、各国政府による10億ドル以上の寄付を確保する上で重要な役割を果たしてきました。しかしいま、アフガニスタンとパキスタンが残っています。その他の国々でもポリオのない状態を維持していく必要があります。

菅原 ポリオ根絶活動をいま止めてしまうと、10年間のうちに、毎年ポリオによって身体まひとなる子どもが20万人以上になると予測されています。私たちも機会があるたびに、国内でポリオ撲滅啓蒙活動を行ってきましたが、現地に行く機会がありませんでした。

佐藤 RCのポリオワクチン投与活動チームは、警護関係で1回10名まで、しかも年4回。今回、2520地区から4人が現地に行つたということはとても誇らしいことです。

「現地に行かないと分からない」

三浦 人生においても貴重な体験でした。やはり、聞くとは大違い。ロータリアンとして毎年チャリティをしています。いまいさ実感湧かなかつた。現地に足を運び、子どもたちへのワクチン投与活動を通し、RCの活動意義が腹におさまりました。